

歌題 食の宴

落ち葉から顔を覗かせ匂い立ち気品を醸すかたくりの花

フィットネス終えて浸かりし午後スパ一雨上がり葦箒が光る

日の暮れの頭を垂るる向日葵にかたつむり這い野辺たそがれぬ

すすき梅雨晴れ間の山路あきつ群れ妻と戯れ帽子へ肩へ

道の端ビニールプール萎みおる片方に糸引く蟋蟀の声

サクサクと妻と味わう落ち松葉足に優しき秋の山路

妻が為すハンドクリーム我も塗る齡気づかす秋の訪れ

境内の陽だまりの中冬椿落ちて言いたげ「わたしはここよ」

メディアから空間線量表示消え八年経ちて薄らぐ意識

憲法の現実との差論俟たず「こうありたい」と掲げ目指すもの

連鎖する世界のテロの終焉は神にフリーな国が鍵握る

食の甲子園®で詠める四首

ホスト校笑顔で迎える前夜祭彩り深き蔵王に黄昏

甲子園生徒ら集う食の宴迎える秋の色深まりぬ

ふるさとを調理に籠める九十分繋がる想い深まる絆

甲子園審査結果の講評に伝わる想いスタッフ破顔